

# 令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 報告書

教科・領域	外国語活動・外国語		愛知県教育委員会
月日・曜	小：6月24日（月） 中：6月25日（火）	会場名	国立オリンピック記念青少年総合センター

＜小学校＞文部科学省初等中等教育局視学官

文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課外国語教育推進室教科調査官 直山 木綿子

＜中学校＞文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課外国語教育推進室教科調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 山田 誠志

## 1 学習評価に関する参考資料について

第1編 総説

第2編 各教科における「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の手順

第3編 学習評価に関する事例（令和元年11月頃公表予定）

## 2 目標と観点の趣旨との対応関係について

【学習指導要領「教科の目標】＜小学校 外国語＞

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【改善等通知「評価の観点及びその趣旨】＜小学校 外国語＞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を <u>理解している</u> 。 ・読むこと、書くことに <u>慣れ親しんでいる</u> 。 ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を <u>身に付けている</u> 。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考え方や気持ちなどを <u>伝え合っている</u> 。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考え方や気持ちなどを <u>伝え合っている</u> 。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを <u>図ろうとしている</u> 。

## 3 「内容のまとめごとの評価規準」作成の基本的な手順

外国語科においては、教科「外国語」としての目標を資質・能力の三つの柱で示しているが、言語「英語」の目標は、英語教育の特質を踏まえ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の五つの領域別で示し、その実現を目指した指導を通して、教科目標の実現を目指すこととしている。こうした特質を踏まえ、外国語科における評価規準を作成する際の手順及び留意事項等を示す。

### (1) 「内容のまとめごとの評価規準」とは

外国語科における「内容のまとめ」は、「五つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」）である。

(2) 「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

- ① 各教科における「内容のまとめ」の記述が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。
- ② 「内容のまとめ（五つの領域）ごとの評価規準」を作成する。

#### 4 「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の観点ごとの留意点 <小学校 外国語>

(1) 「知識・技能」の留意点

- ・「知識」については、小学校学習指導要領p. 157「2 内容〔第5学年及び第6学年〕」の〔知識及び技能〕における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記されていることを指しており、それらの事項を理解している状況を評価する。
- ・「技能」について、
  - 「聞くこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている状況を評価する。
  - 「読むこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、アルファベットの活字体の文字を識別したり、その読み方(文字の名称)を発音したりする技能を身に付けている状況を評価する。
  - 「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり話したりする技能を身に付けている状況を評価する。
  - なお、指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり話したりする技能を身に付けている状況か否かを評価することにとどまらず、使用的言語材料の提示がない状況においても、既習の言語材料を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり話したりする技能を身に付けている状況か否かについても評価する。
  - また、小学校学習指導要領p. 157「2 内容〔第5学年及び第6学年〕」の〔知識及び技能〕における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記されている「音声の特徴を捉えて話すことについてそれ自体を観点別評価の規準とはしないが、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材を活用したり、デジタル教材等を活用したりして適切に指導を行う。
  - 「書くこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、アルファベットの大文字・小文字の活字体を書く技能を身に付けている状況を評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の留意点

- ・「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている状況を評価する。
- ・「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて書かれた簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味が分かっている状況を評価する。
- ・「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり話したりしている状況を評価する。
- ・「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事項などについて、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について、書いたりしている状況を評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の留意点

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する。
- ・上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

(4) 内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準例 <小学校 外国語>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
聞くこと	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取る技能を身に付けています。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で話されたものを聞こうとしている。
読むこと	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の文字を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けています。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて書かれた簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味が分かっている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で書かれたものの意味を分かろうとしている。
話すこと 〔やり取り〕	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けています。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
話すこと 〔発表〕	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けています。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、大文字・小文字の活字体を書く技能を身に付けています。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事項などについて、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について、書いたりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書いたらりしようとしている。

5 「内容のまとめりごとの評価規準」から、「単元ごとの評価規準」を作成する際の考え方

外国語科では、学習指導要領においては言語「英語」の目標を五つの領域別で示しており、学年ごとの目標を示していない。「指導計画の作成及び内容の取扱い」において、各学校において学年ごとの目標を設定することとしている。このため、「教科目標」「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準等」に基づき、各学校が児童生徒の実態等に応じて学校の「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成する。

(1) 学年ごとの目標及び評価規準の設定

- 各学校においては、「教科の目標」及び「領域別の目標」に基づき、各学校における児童生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を適切に定める。
  - 五つの領域別の「学年ごとの目標」は、領域別の目標を踏まえると、各々を資質・能力の三つの柱に分けて一文の能力記述文で示すことが基本的な形となる。なお、五つの領域別の「学年ごとの目標」の設定は、これまで中学校・高等学校においては「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の作成及び活用として、既に行われてきたところである。
  - 一方で、「学年ごとの目標」に対応する評価規準は、「内容のまとめ（五つの領域）ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述する必要がある。「学年ごとの目標」から評価規準を作成する手順は、「内容のまとめ（五つの領域）の評価規準」の場合と基本的に同じである。
- (2) 単元ごとの目標及び評価規準の設定
- 「単元ごとの目標」は「学年ごとの目標」を踏まえて設定する。
  - 「単元ごとの評価規準」は「単元ごとの目標」を踏まえて設定する。
  - 「単元ごとの目標」及び評価規準は、各単元で取り扱う事柄、言語の特徴やきまりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定することになる。
  - 具体的には、「内容のまとめ（五つの領域）ごとの評価規準」を基に、以下のように作成することが可能である。これらはあくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

◆ 「読むこと」の評価規準の設定例 <小学校 外国語> ※言語材料、目的等、事柄・話題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
評価規準	[知識] アルファベットの大文字・小文字の活字体について理解している。 [技能] アルファベットの大文字・小文字の活字体を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている。	ALTなどに自分の名前のスペリングを理解してもらったり、ALTや友達の名前のスペリングを確認するために、名前のスペリングを発音したり、識別したりしている。	ALTなどに自分の名前のスペリングを理解してもらったり、ALTや友達の名前のスペリングを確認するために、名前のスペリングを発音したり、識別したりしようとしている。

※ 「思考・判断・表現」の評価規準についての留意点

小学校外国語科における「領域別の目標」の目標の文末は、「～できるようにする」となっているが、「読むこと」のイのみ、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」と、文末が「～するようにする」となっていることに留意する必要がある。また、この目標は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれているものを見て、音声化することを指している。その際には、言語外情報を伴って示された簡単な語句や基本的な表現を、児童が文字の音（語の中で用いられている場合の文字が示す音の読み方）を手掛かりに、推測して読むようとする。

◆ 「話すこと [やり取り]」の評価規準の設定例 <中学校 外国語> ※言語材料、目的等、話題、内容

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
評価規準	[知識] 助動詞canや疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。 [技能] 町や地域について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、助動詞canや疑問詞whenなどの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	外国人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	外国人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

※ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準についての留意点

言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況については、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。